

ふじみサラダボール子育て情報

「理解への道」

令和4年9月28日号

板橋富士見幼稚園



幼児期は知っているから始まる（2）

今回は、好奇心（知りたいと思う気持ち）から興味関心が生まれ、行動力に繋がるというお話をしました。

文部科学省は新しい指針として、幼稚園卒園までに遊びを通して探求力への意欲的な感覚を育ててほしいと願っています。一人一人の行動力（探求力）をどう育てていくかが、幼稚園教育の大切な課題となります。

3歳から心情豊かな体験を通して自発主体的に遊びにチャレンジする中で、「意欲」が育ち、探求力を携えて自信を培うこととなります。この段階まで成長してくると、幼児は全人的な教育として新たなステップへと進みます。その時期は5歳児の10月以降の姿に現われてくる「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」です。この10の姿は、全人的教育で育ち持つための基礎的（非認知力）な姿としてあげられているものです。

- ①健康な心と体の育成（自ら身体を十分に動かして遊ぶ）
- ②自立心（依存から自立へいざなう力をアシストする）
- ③協同性（一緒にする事の楽しさや、一緒にやり遂げる充実感を味わう）
- ④道徳性（集団で道徳性や規範意識を学び社会での適応力を培う）
- ⑤社会生活とのかかわり（周りで働く人や人々にすら支えられている事を学ぶ）
- ⑥思考力の芽生え（実際の体験を通して、考えたり工夫したりする力を学ぶ）
- ⑦自然と生命尊重（四季を通して思いやる心と自然の恵への感謝を培う）
- ⑧数量図形文字や数（自然の中で、感覚として数・量・文字を獲得する）
- ⑨言葉による伝え合い（感動した体験や経験を伝え合う楽しさや言葉を学び合う）
- ⑩豊かな感性と表現（頭の中で描く心の像を、音楽や身体で伝え合う）



この10の姿は、芽となる体験や経験を積み重ねていくことで育ちもつのです。

そしてそれは、子どもが自然的環境の中で、自発主体的な行動の下、培われるものです。よって、小学校に上がる前までに、「知っている」から「もっと知りたい」と思う探求力を携えるところに留めることが小学校に繋ぐ重要な教育です。

早期的に「理解する」ところまで踏み込むと、小学校で毎日学ぶ新しい出会いに、「理解している」からと言って話を聞く機会を拒否したり、気が散漫になったりし、気づいたときには「授業が分からない」というような状況になってしまう可能性があります。自信を持って小学校での学習行動に繋いでいくためには、まずは主体的によく遊び、「知っている」から「理解したい」と思う意欲を育てる知的能力を加速させてあげることです。つまり、毎日の遊びを積み重ねるプロセスにより、子どもは知的に成長しつづけていることを是非知ってあげてほしいと思います。